

# 「2020年暮らしのイメージ」に関する アンケート調査

本アンケートで設定した設問は全部で5問。設問項目は以下のとおり。

**Q1.** 温暖化の進行を止めるため、私たちの暮らしから出るCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）を大きく減らしていく必要があります。必要なCO<sub>2</sub>削減が実現したときの私たちの暮らしは、どのようなものなのでしょうか？ 逆にいえば、あなたはどのような暮らしを選ぶことで、CO<sub>2</sub>を削減したいと思うのでしょうか？

同じ「CO<sub>2</sub>が大きく減った暮らし」でも、さまざまな暮らしのイメージがあります。以下に3つの「暮らし」のイメージを挙げてあります。それぞれを読んで、「自分だったら、この3つのうち、どの暮らしを選ぶことでCO<sub>2</sub>を削減したいか？」を選んで下さい。

## シナリオ A

暮らし方や生活パターンは、基本的に今とあまり変わりません。現在の生活を続けながら、家屋・家電・自動車・給湯を省エネ・低炭素型に買い替え、太陽光発電を設置することで、暮らしから出るCO<sub>2</sub>を大きく減らすイメージです。

2010年から2020年のあいだに、断熱性能のよい住宅を購入（またはリフォーム）し、エアコン・冷蔵庫・電球はすべて省エネタイプに、給湯器も高効率型のもの買い替えています。自動車はハイブリッド自動車に買い替え、屋根には太陽光発電を設置しています。

省エネナビがついているので、無駄なエネルギーが「見える化」され、気をつけて減らすことができます。また、「人がいないと自然に電気が消える」「生活パターンを学習し、それに合わせて給湯や家電のスイッチのオンオフをする」など、自動制御での省エネ化が進んでいるため、特段意識しなくても、自然に省エネ型の暮らしができます。

このように、「省エネ・高効率型の設備や機器への買い替え」「太陽光発電の導入」「見える化と自動制御による暮らしの省エネ化」によって、生活パターンは基本的に現在のままで、必要なCO<sub>2</sub>削減ができています。

今の生活をあまり変える必要はありませんが、住宅や家電、自動車を省エネ型に買い替えたり、太陽光発電を設置したりするために、お金がかかります。省エネ効果でモトはとれますし、初期費用を下げる制度もできているので、以前ほど負担感はありませんが、それでも買い替えるための費用は必要となります。

## シナリオ B

家屋や使用する家電製品などは省エネ型に買い替えつつ、今のように「一家に1台（2台以上も？）」家電や自動車を持つのではなく、多くのものをみなで共有して使う、「必要なときに必要なだけ使うが、自分では所有しない」暮らしです。

2010年から2020年のあいだに、それぞれが自分の居室を持ちながら、台所や食堂・居間などは共用スペースとなっている、「コレクティブハウス」に住むようになっていきます。コレクティブハウスには、単身向け、家族向け、年配者向けなどさまざまなパターンがあります。

コレクティブハウスの家屋は、断熱性能のよい省エネ型のもので、共有するエアコンや冷蔵庫、電球などもすべて省エネ型に買い替えたものです。

共有スペースで過ごし、みなで調理することが多いため、暖房や照明、調理のための一人当たりのエネルギーは少しですみます。家電製品も共有するものが多いので（たとえば、アイロンは1日数分使えば十分ですから！）、それぞれが所有する家電製品も減ります。

自動車は、コレクティブハウスに備え付けまたは近くにあるカーシェアリングにあるハイブリッド自動車を利用します。各自は自動車を所有しませんが、それでも問題なく「自動車に乗りたいときに乗る」ことができます。

コレクティブハウスの屋根には、太陽光発電が設置されており、共有部分の電力をまかない、残った分はそれぞれの居室でも使うことができます。また、太陽熱温水器も設置されているので、台所やお風呂などの給湯の半分は太陽熱で満たします。足りない分は、高効率給湯器を使います。

ひとりぼっちでだれとも会話しないという寂しさはありませんが、反面、プライベートは若干制限されるところが出るかもしれませんし、他の人との関わりがわずらわしいこともあるかもしれません。

住宅や家電を省エネ型に替えたり、太陽光発電を設置したりするために、お金がかかります。いくつもの世帯で負担をしますし、省エネ効果でモトはとれますから、大変な負担感ではありませんが、それでも買い替えるための費用は必要となります。

## シナリオ C

都会ではなく、森や田畑の近くに住み、自宅の食べ物とエネルギーはできるだけ自分たちで作  
り出したり、その土地のものを活用したりする暮らしです。

2010 年から 2020 年のあいだに、家屋は、断熱性能に優れた住宅を購入（またはリフォーム）  
し、暖房はペレットストーブか薪ストーブにしています。燃料は近くの森林から出る間伐材など  
です。冬にはそのストーブで煮炊きもできます。夏も都市部のように暑くなく、森や田畑をわた  
る涼しい風が吹くので、エアコンはいりません。そのほかの家電も冷蔵庫や電球など必要最低限  
のものしかなく、そういった家電製品はすべて省エネ型に買い替えています。掃除の多くはほう  
きと雑巾を使えば十分など、家電製品は持っていて必要なときしか使いません。

屋根には太陽光発電を設置し、家庭に必要な電力をまかなっています。太陽熱温水器も設置し  
ているので、台所やお風呂の給湯のほとんどは太陽熱でまかない、残りはガスを使っています。

都会に比べると移動手段が限られている丈、どうしても自動車による移動が多くなりますが、  
山道など地方の暮らしに合った燃費のよい自動車です。

家のそばの畑で季節の野菜などを作っているので、「わが家の食糧自給率」はかなり高くなっ  
ています。また、近所の農家からお米を分けてもらったり、お互いに農作物や料理をよく「おすそ  
分け」しているので、「地域の食糧自給率」も都会に比べてとても高いです。遠くから食品を輸入  
したり運んだりするときのエネルギーが減るので、その点でも CO2 削減に貢献しています。

自然の中でゆったりしたペースで暮らせる良さはありますが、一方で、都会に比べると不便な  
面もあるでしょう。食べ物やエネルギーを自分で作る喜びの陰にはもちろん大変さもあるでしょ  
う。

この暮らしでも、住宅や家電、自動車を省エネ型に買い替えたり、太陽光発電を設置したりす  
るために、お金がかかります。省エネ効果でモトはとれますし、初期費用を下げる制度もできて  
いるので、以前ほど負担感はありませんが、それでも買い替えるための費用は必要となります。

Q2. あなたの選んだ暮らしのイメージの中で、あなたにとって魅力的に感じたところはどこでし  
ょうか。（自由記述）

Q3. あなたが実際に、自分の選んだ暮らしに今後 10 年間で移行していくことを考えたとき、障  
壁となりそうなのは何でしょうか。いくつでも挙げて下さい。（自由記述）

Q4. ここの挙げた 3 つのイメージ以外に、「私はこういう暮らしで CO2 を削減したい」という暮  
らしのイメージがあれば、部分的でもけっこうですので、教えて下さい。（自由記述）

Q5. 温暖化対策にかぎらず、日本が「持続可能な国」になるために、私たちの暮らしや社会をど  
のような方向に変えていったほうがよいと思われるか、どのような観点でもよいですので教えて  
下さい。（自由記述）

アンケートの回答を以下に示す。また、Q1～Q5については、回答の一部を抜粋して表に示す。

性別		
単一回答	N	%
男性	157	49.4
女性	161	50.6
全体	318	100.0

年齢		
単一回答	N	%
12才未満	0	0.0
12才～19才	0	0.0
20才～24才	19	6.0
25才～29才	31	9.7
30才～34才	58	18.2
35才～39才	77	24.2
40才～44才	41	12.9
45才～49才	38	11.9
50才～54才	26	8.2
55才～59才	15	4.7
60才以上	13	4.1
全体	318	100.0

地域		
単一回答	N	%
北海道	15	4.7
東北地方	25	7.9
関東地方	101	31.8
中部地方	57	17.9
近畿地方	51	16.0
中国地方	20	6.3
四国地方	12	3.8
九州地方	37	11.6
全体	318	100.0

Q1. この3つから選ぶとすると、どの暮らしのイメージを選びますか。		
単一回答	N	%
シナリオ A	210	66.0
シナリオ B	40	12.6
シナリオ C	68	21.4
全体	318	100.0

(アンケート結果の抜粋)

居住地域_性別	年齢	Q1 どの暮らしのイメージを選びますか。	Q2 あなたの選んだ暮らしのイメージの中で、あなたにとって魅力的に感じたところはどこでしょうか。	Q3 あなたが実際に、自分の選んだ暮らしに今後 10 年間で移行していくことを考えたとき、障壁となりそうなものは何でしょうか。いくつか挙げて下さい。	Q4 ここで挙げた3つのイメージ以外に、「私はこういう暮らしでCO2を削減したい」という暮らしのイメージがあれば、部分的でもけっこうですので、教えて下さい。	Q5 温暖化対策にかぎらず、日本が「持続可能な国」になるために、私たちの暮らしや社会をどのような方向に変えていったほうがよいと思われるか、どのような観点でもよいですので教えて下さい。
東北_男性	38	シナリオ A	自動制御で手間がかからないこと。	費用。	普段から節約や省エネ意識を持つこと。	植物栽培に力を入れること。
近畿_女性	38	シナリオ A	今の暮らしとあまり変わらないところ。	わかりません。	特にないです。	わかりません。
中部(+北陸)_女性	52	シナリオ A	今の暮らしを変えずに過ごしたい。	ない。	自分で作った物を食べる。	特にない。
関東_男性	40	シナリオ A	今と変わらずに無理しない範囲でできるから	買い替えの費用。	わからない。	エネルギー消費を一人一人が心掛ける。
九州_男性	46	シナリオ A	自然の力でエネルギーを得る手法に賛同できるので選びました。	まだ太陽光技術は進歩することになるとおもうので今よりは需要も増え費用も安く抑えられることになると思う。	なるべく車は使わずに生活するということです。	エネルギー技術の開発にもっと力が入れられれば良いと思います。
近畿_男性	63	シナリオ A	今まで慣れている生活スタイルだから。	加齢に伴う身体の衰え。	今も行っている身近なゴミの分別を続けていく。	自然との共生
近畿_男性	47	シナリオ A	意識せずに省エネができる	特に無い。	家庭菜園。	石油資源の活用を限りなく減らす。
東北_女性	54	シナリオ A	無駄なエネルギーが見える化され、省エネの意識ができる。自動制御で省エネ化ができる。	経済面。	物を買うとき本当に必要かよく考える。	農業対策にもっと力をいれる。
九州_男性	46	シナリオ A	低エネや太陽光発電などを利用した暮らしと言うところが魅力的に感じた。	原子力発電。	無駄なエネルギーが省くことができるということはいいことだと想う。	使用者だけでなく商品を売り出す側もCO2を減らせるような製品の開発が大事だと思う。
近畿_女性	29	シナリオ A	今の生活とかわらにま、エコを実践できるところ。	省エネの環境を手に入れるための予算がないこと。	太陽エネルギーの利用、省エネ家電に買い換える	省エネ分野において常に先駆者であること
関東_女性	34	シナリオ A	エコの為に大々的に生活を変えるのは負担。	経済性。	買い替え時に出来ればエコのものに替えたい	正確な情報が欲しい エコと思われてる事が反対の見解をみたりすると何を信じて良いのか、エコ活動が馬鹿らしく思ってしまう
四国_女性	43	シナリオ A	今の生活を維持しつつ省エネできること。	今よりも時間を使って行うことが増えること	なし	旧体制の政治は改革が必要 そのために生活が苦しくなるのはやむを得ない
中部(+北陸)_女性	32	シナリオ A	自動的に省エネになるところ。	資金 仕事での転勤	わが国がCO2を削減する前に途上国のCO2をなんとかすべきだと思う	食の国内自給率をもっとあげる
北海道_女性	43	シナリオ A	ハイブリット車に乗り、太陽光発電を屋根に取り付ける。	太陽光発電の設置。ハイブリット車への乗り換え。家電製品の買い替え	キャンドルでの生活。マンション暮らしでも出来ることは自給自足の生活。	国でもっと積極的にCO2削減に支援しなければ、民間レベルではだめ。
中部(+北陸)_女性	37	シナリオ A	電気料金が安く済む。不必要な部分を明確に表示できる。	買い換えるための金額	車等を一家に一台持つ必要がなくなればいいとは思いますが、そのためにはもっと便利な交通の便が必要になる	先に買い換えるための補助金。(エコポイントではなく)マスコミ等にもっと取り上げて、暮らしの改善を呼びかける等。
中部(+北陸)_男性	26	シナリオ A	無駄なエネルギーが目に見える点。	買い替えのタイミング・金銭。	マイバック・マイハシの使用。	CO2 排出に対する、違約金の発生。
北海道_女性	41	シナリオ B	共有して利用できるの、個人負担が重くならない。	各自のプライベート空間については、確保できるかどうか。	本当に必要なもので生活をなりたたせるために、物を多く持たないことを理想とする。工夫して代用するようにしたい。	物を作らなければ、経済はなりたたず、売れなければ労働者はこ困る。それでも、廃棄の多いこの国の考え方はそろそろ考え直す時期のような気はする。

近畿_女性	40	シナリオ B	「必要な時に必要なだけ使うが」というところ。	今もっているもの(車等)を手放すことができるか。	冷暖房を控える。	使い捨ての方が得するようなことを無くす。(修理より新しく買った方が安くつく、ということとは不条理である)
中部(+北陸)_女性	28	シナリオ B	あまり使わないものを共有できるのはいい	お金がかかること	ない	無駄をなくす
中部(+北陸)_男性	62	シナリオ B	共有していく暮らしが良い。	太陽熱発電	不必要な電気は消すとか、根本的にエコにする	思いやりが一番大事。
近畿_女性	27	シナリオ B	CO2削減にもなるし、他人と共有する事によって、コミュニケーションも取れると思うから。	わからない。	特にない。	特に無い。
関東_女性	20	シナリオ B	家電を共有するのはとても良いアイデアだと思った。	共有者とうまく人間関係を作っていけるか。	自家用車にはなるべく乗らず公共機関を使う。	政治家をやめさせる。
関東_女性	28	シナリオ B	省エネすること以外にも、人と人との関わりという利点がある。	省エネ家電に変更する初期費用の投資。	「CO2を減らす」よりも「O2を増やす」つまり減らすことばかりを考えるのではなく、木を増やし、O2を増やす。	個人向けの寮を作る。(個室)寮は学校や会社向けのものしかない。国が寮を作り、共同スペースを多くすれば、個人単位の初期投資が多く必要ない。個人向けの風呂・トイレ共通や、個人向けの個室タイプ、家族向けの車や備品共通等、価格的にも環境にもメリットがあるタイプがほしい。
関東_女性	48	シナリオ C	自然と共存するようなどころ。	電子機器類の発達。	今できることは、余計なエネルギーをなるべく消費しないようにすること。	自分たちの気持ちの持ち方も大きく左右すると思うので、心に余裕のある生活を送れる社会にすること
中部(+北陸)_男性	39	シナリオ C	自然の中でゆったりしたペースで暮らせる良さ。	家族。	植物以外でCO2を酸素に変えることのできるものを開発する。	社会全体がCO2を出さなくするのは難しいと思うので、個人的には出さない努力、社会全体としては出したCO2を処理する技術構築が必要だと思う。
近畿_男性	46	シナリオ C	都会の生活よりも田舎の方がのんびりしていて私自身に向いていると思う。	田舎に行くとなった場合の障壁として考えられることは、まず現金収入を得るための仕事。ついで、天候の環境に適応できるかどうかを考えられます。	植林や棚田等の放置されている荒地をもとに戻すこと。	やはりスローライフにすべきだと思います。何でも機械に頼るのではなく、地域住民の協力やボランティア等の人間の力でできるのがいいのではないのでしょうか?
近畿_女性	41	シナリオ C	自然の中での暮らしが魅力的に感じました。	住宅の買い替え、リフォーム、家電製品の買い替えの為に費用。	特に思い浮かびません。	自然との共有をもっと増やしていけたらいいのでは…。と思います。
北海道_女性	38	シナリオ C	自然に近い暮らし方が一番エコだと思うから。	親の存在 医療が身近にないなどの不安。	特にない	介護や福祉が充実できるような 制度改革や支援が必要
中部(+北陸)_男性	28	シナリオ C	自然と調和した生き物らしい生活に魅力を感じる。	エネルギーの確保。	身の回りのものはできるだけ手作りにする。	自然との調和に満足の方向性に向ける
関東_男性	51	シナリオ C	緑の多いところで、あくせくしない、自給自足的なのんびりした生活を送りたい。	仕事、親の介護。	特にない。	無駄な消費を省き、常にCO2削減を念頭に行動する。